

大分県庁前大手公園に出来た「ザビエル像」

立川輝信



ザビエルは一五五一年、当時の府内領主大友宗麟の招きで山口から大分に着きキリスト教を始めて府内の地に布教し、かたわら西洋文化を広め、そのため洋式の病院や学校などが開設され、当時わが府内は我が国キリストの大中心地となって西洋文化の花が咲いた。

大分県キリシタン史蹟顕彰会長（前大分市長・現大分生熊水族館長）上田保氏は、我が国のザビエル由縁の各地にはそれぞれ何かの記念物があるのに我が府内大分の地には聖師を顕彰する何物もないことを遺憾として、今回私財をもって聖師命日に当る去る十二月三日の佳日に銅像が建立されて除幕式が挙行された。像は高さ二、一メートルのブロンズ像で、後の壁（屏風）にはザビエル采日の航跡の世界地図が描かれている。製作者は東京の彫刻家佐藤忠良氏である。

除幕式には製作者佐藤氏は勿論、東京・長崎から采られた神父を始め、地元木下知事・安東市長・川上市会議長・草本県商工会議所会頭・長野大分合同新聞社長・其他の知名士並に信者多数が参列、別府市のミッションスクール明

星学園生徒六十人の合唱隊が讚美歌をうたう中で、信者中から選ばれた市内牧の増田信一郎ちゃん（四つ）が除幕・上田氏の挨拶・カトリック大分教区長平田司教のミサがあった。筆者も席末をけがした。（本会常任委員）

なお後の壁右側に次の説明がある。

聖フランシスコザビエル像

日本に初めてキリスト教を伝えた聖フランシスコザビエルは、東洋宣教の途次一五四九年（天文十八年）日本に渡来した。その後鹿児島・平戸・山口で布教し一五五一年（天文二十年）九月・大友宗麟の招きにより大分に来て布教した。かくてこの地は日本における宣教の中心地となり、西洋文化が目覚ましく開化した。少年達はピオラを弾き讚美歌をうたった。これは日本で唱歌をうたった最初である。またクリスマスにはこれも、日本最初の西洋劇が演ぜられた。更に日本で初めての洋式病院さえあった。その他初等学校・問答学校・通訳学校・伝道士学校・コレヂオもあった。

實に大分こそは当時西洋文化の花園であった。今聖師の像を建つるに当って、その昔をしのび、この一文を草する。

一九六九年十二月三日

聖フランシスコザビエルの祝日

大分県キリシタン史蹟顕彰会

上田 保

×

×

×

なをキリシタン史蹟顕彰会では県下玖珠郡九重町足立氏寄贈の五千万円を基金として、殉教者多数を出した市内明治村葛木の地に建設中のキリシタン公園と殉教記念碑は来年四月完成の予定である。